



獨協医科大学越谷病院小児外科のあゆみ

2008 年



獨協医科大学越谷病院小児外科

目次

巻頭言：小児外科医のインセンティブ	1
I 教室人事	2
II 教室員のひとこと	3
III 診療の集計	
1. 外来および入院	8
2. 手術	9
IV 研究業績	
1. 論文発表	10
2. 学会・研究会への参加	10
3. 研究助成等	15
4. 学位	15
V 教育関連の活動	
1. 学生実習	15
2. 卒後臨床研修	16
3. 講演・講義	16
4. セミナーの開催	16
5. 小児外科・病理カンファレンス	16
6. 抄読会	16
VI その他	16
付. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業） 「神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化 および新規診断・治療法の開発研究」班 「研究成果発表会 [一般向け]」プログラム	
編集後記	

* 表紙はタイ、バンコクの寺院にて

巻頭言：小児外科医のインセンティブ

獨協医科大学越谷病院

小児外科教授 池田 均



講演などでお出でいただいた先生方をご存知のとおり、当院は東武伊勢崎線新越谷駅と JR 武蔵野線南越谷駅が交差するところにある。両駅から徒歩 5 分以内とアクセスがよく、出張で都内へ出るのも電車で 1 時間とかからない。

赴任前に土田嘉昭先生が「越谷はほとんど東京ですよ」と仰っていたが、とは言え埼玉県で、越谷はその南東部に位置している。東は江戸川を跨ぐと千葉県であり、江戸川に沿って南下すれば葛飾柴又を経て葛西の臨海公園、つまり東京湾に出る（実はこれは私の日曜日のサイクリングロードでもある）。また東武線に乗れば 15 分で都内の千住だが、杉田玄白が腑分けに立ち会った小塚原刑場跡はここにある。当地の辺りはいわゆる首都圏のベッドタウンであり、おかげさまで幸いなことに年間を通して小児外科医としての緊張感を保つことができる。しかしながらいつ逆風に帆をおろすことになるやも知れぬと虞ながら、諸先輩方に負けない医療を実践しつつ、かつ若手医師の教育や研究指導にも気の緩みのないようにと自身を叱咤激励の連続である。

ところで、2008 年は当科に新たな小児外科専門医（日本小児外科学会）とがん治療認定医（日本がん治療認定医機構）が誕生した。いずれも試験と書類審査があり、取得は決して容易ではない。特に前者は日本小児外科学会が他学会に先んじて確立した専門医制度で、わが国の小児外科医療の発展に大きく寄与してきた。現在、私は学会の専門医認定委員会の責任者として新たな専門医の認定や更新認定を行う立場にある。目下、学会では小児外科専門医の更新条件に（外科専門医と足並みを揃え）診療経験を含めるべく検討が進められている。これは社会の要求する専門医の質を保証するための必要条件であり、学会自らが社会的要求に応える専門医制度の整備として大方の賛同を得ている。しかしこれは同時に、小児外科医にとって専門医の更新を難しくする条件ともなり、わが国の適正な小児外科専門医の数や配置、あるいは小児外科医療の集約化の問題などと併せ議論を進める必要がある。外科専門医の議論には、外科医のステータスやインセンティブを高め、あわよくば外科医減少にも歯止めをかけたいとの期待があるようにも見受けるが、少なくとも小児外科の領域では欧米におけるような少数精鋭主義は学問としての小児外科を先細りさせる結果となり、わが国には馴染まないものと思っている。言うまでもなく小児外科医にとっての真のインセンティブとは外科医としての自己研鑽の喜びと、そしてその結果としてのこどもたちの笑顔であろう。

I 教室人事

2008年4月1日より畑中政博君が公立藤岡総合病院（群馬県藤岡市）の外科へ学外派遣となり、同日から学内は池田、石丸、田原、藤野、鈴木の5名体制となった。

非常勤講師はこれまでどおり、群馬県立小児医療センター形成外科部長浜島昭人先生と社会保険船橋中央病院形成外科部長蓮見俊彰先生に形成外科の外来診療、手術、教育を担当していただいた。さらに群馬県立小児医療センター外科部長黒岩 実先生と埼玉県立小児医療センター外科医長内田広夫先生には引き続き非常勤講師としてそれぞれ鏡視下手術の教育と研究指導を担当していただいた。



2009. 3. 17 病院前



2008. 11. 17 AAPS（バンコク）にて



秘書の長嶋さん、菊地さん
（研究室にて）

Ⅱ 教室員のひとこと

「1 年を振り返って」

石丸由紀

最近、自分が小児外科医だと話すと、一般の方から「大変なんでしょう？」とよく言われる。報道やドラマなどで小児科医が不足しているということを見たり聞いたりしているらしい。うちは小児科ではないとか、外科も大変なんだということをおざわざ説明するのも面倒なので、「大変なんです」と言うことにしている。

小児科医の不足は大きな問題だが、小児外科も地味に不足しているらしい。小児でも一定の割合で外科疾患はあるのだし、成人ばかり診ていた外科医がいきなり小児の管理ができるはずがない。小児科医も不足しているのだから、周術期の管理を小児科に完全に任せるといっても、場合によっては無理があるだろう。小児外科も絶対に必要な科だと思うのだが、入局希望者は減っている。小児外科に対してのイメージがわからないとか、小児は面倒だと思われているのだろうか。

自分を振り返ってみると、医者になって（研修医も含め）もう 20 年がたとうとしている。昔に比べると当直の回数はもともと多かったのであまり変わっていないが、忙しくなったように思う。定時に帰れることは少ない。検査などの伝票が手書きだったのが PC 入力になったのでその分の労力は減った。しかし以前は 1 枚の承諾書に日程と手術名が書いてあればよかったが、今は細かい内容や合併症なども記載しなければならないし、インフォームド・コンセントも用紙に記入する。入院診療計画書も書かなければならない。左右あるものに関してはマーキングも必要だ。説明も個人情報観点から個別に別室で行わなければならない。こどもの数が減っているというのに、うちの手術件数は増加している。医師の人数が少なければ休日の出勤も増えるし、休みが少ない。別に長時間の手術をたくさんしているというわけではないが、緊急の手術も多いし休みも呼び出される。教授は「宿命」だというが、他の科と比較することができる研修医たちが、人数の多い科に集まるようになるのも無理はないと思う。

厚生労働省もいろいろと考えているようだが、すぐに効果が出るとは思えないし、そもそも効果があるのかも分からない。医者だって一人前に育てるのに時間がかかるのだから、10 年以上先のことを考えた政策が望まれるが、その前に弱小な医局や診療科はなくなってしまうかもしれない。もっと、「この科に入ってよかった」と思えるようにはならないだろうか。

「四十而不惑」

田原和典

最近ある曲がよく浮かぶ。「41歳の春だから〜♪」。その歌はあるアニメ番組のエンディングで使われていた曲。別に大ヒットしたものでもないが、知っている人は知っているという曲。これを聞いていた頃は小学生で、その歌詞の意味すら理解していなかった頃。そんな曲が今頭の中でリフレインしている。そう、まさに今の私は41歳。しかも春。ここまで来たのか…という感慨もあれば、溜息もでる。巷では“アラフォー”なる言葉（女性に対して使う言葉ですが）が氾濫しており、世間も40歳代という世代に注目しているようだ。部下からは突き上げられ、上司からは怒鳴られるという間に挟まれるつらい世代。そこに私は今いるのである。はたして40歳代とはどういうものなのだろうか…。

かの偉大な思想家孔子は、論語の一節でこう述べられた。「四十而不惑」。迷うな、狼狽えるなと教えておられる。これは孔子自身の経験から出た言葉らしく、実際に孔子は40歳の頃思うように仕事ができず迷っていたらしい。それで後に教訓として「四十而不惑」と示されたのだろう。偉大な先人もこの年代で苦勞してきたと聞くと、なおさら自分の年を考えずにはいられない。

そういえば、先日アカデミー賞外国映画賞を受賞した映画「おくりびと」で一躍時の人となった本木雅弘氏も43歳。授賞式での立ち振る舞いは清々しく、このときの彼の顔は大きな仕事をやり遂げた男の顔で、男として嫉妬を覚えるほどの自信にあふれた顔そして言葉であった。それもそのはず、彼はこの映画の構想を約10年近く前から練っており、彼自身が企画を持ち込んだとのことである。10年間映画化のために心力を尽くしてきた。彼はぶれることなく仕事を遂げたのである。そこでかの賞の受賞。顔に自信が溢れていたのは、大プロジェクトを成し遂げた満足感からして至極当然なのである。まさに「四十而不惑」な生き方をしているのだ。

さて、自分はというと…、月並みに“迷っている”というのが現状だ。この紙面で述べられるほどの仕事もできていないし、普通(?)に狼狽えている。「頑張っているのか君は？」と孔子に問われれば、自身をもって答えることができないであろう。しかしながら、時間は動いている。今は弱音を吐いている場合ではないのだ。Yes, we can! と堂々と言えなければならないのだ（そういえば、あのバラク・オバマ氏も40歳代!）。

そして今年3月家を建てた。新たなる1歩として、ついに安住の場所を作った。この地に根をはるためにも。そうか！私にとっての40歳代とは、もう迷っている場合ではない年代なのか！（追記：ちなみに、冒頭の歌の主人公は“天才バカボンのパパ”である。実は彼は41歳の設定。バカボンのパパも大変な世代であったのだ。）

「本当は怖い手術の話」

藤野順子

最近我が家の子どもたちは、就寝時に必ずお話を聞かないと眠りにつかない。毎回違う話を要求するので、私の通勤時間はもっぱら童話集を読む時間になっている。初めは簡単なお話でよかったのに、話が短いとか、単純だとか文句が出るようになった。そこで、思い立ったのがグリム童話集である。話は短いが子どもに話すにはちょうど良く、大人が読んでもなかなかおもしろい。以前に『本当は怖いグリム童話』という本があった。確かに、原文に近い翻訳本を読んでも『悪い継母は、煮えたぎった風呂に入れられ、毒蛇の入ったつぼに入れられて無残な死に方をしました』などという怖いことも書いてある。最初は残酷なところを簡略化して『死んでしまいました』とだけ話していたのだが、『死ぬこと』にはかわりないと考え、このところは原文に近い形で話すようにしている。

手術に関しても同じである。保護者が時に、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術の手術時間の短いことを指して、『すぐ終わる手術なんですよね』とおっしゃることがある。簡単な手術だと思うことで安心したいという気持ちもあるだろう。しかし、私はそういうときに決して『はいそうです』とは言わないようにしている。確かに、これらの年間の手術件数は多いので、慣れているとはいえる。しかし、少し間違えば他臓器を損傷することもあり、すぐには終わらない手術になる可能性も十分に考えられるからだ。手術には怖いことが沢山ある。童話では話の内容は忘れてしまっても、怖い文句は覚えているように、患児の顔や名前は忘れても、手術中怖かったことはよく覚えている。本当はとても怖いけど、いろいろな症例があってやはり楽しくてやめられないのが手術である。グリム童話と実によく似ている。



「目指せシックス・パック」

鈴木 信

年月が経つのは非常に早いもので、越谷に来て早 2 年が経とうとしている。昨年のあゆみの原稿執筆以降、世間は 100 年に 1 度の大不況に陥り世界経済は激動（落ち込んだままだが・・）の 1 年だったが、私にとっての、この 1 年間はどんな激動の 1 年だったろうか？それはずばり「メタボ」からの脱出だろう。

きっかけは GERD の症状悪化やら何やらがあったとは思いますが、長女からの一言「ダイエットすればあ〜」が 1 番のきっかけであっただろう。今年にあゆみの場をかり「脱メタボへのあゆみ」を書きたいと思う。まず脱メタボのために最初に取り組んだことは、
――「五訂日本食品標準成分表」の書籍購入。

食品の栄養素およびカロリーに気をかけることで自制心を養うことが目標。食品の購入時、食品成分表示を見る癖を身につけることで、余分なカロリーの摂取予防に効果あり。完全に間食を排除出来た。しかしながら、ただ単にカロリーを取らなければ痩せるだろうとの考えは甘く、確かに体重はすぐに落ちたが脂肪は落ちず、蛋白異化にて筋肉量が一気に落ちる始末。

――「高機能体重計」の購入。

体脂肪率などを測れる高機能の体重計を若干奮発し購入。毎日朝晩体重計に乗るように心掛け、体脂肪率を落とすことを念頭にある程度のカロリー摂取（1500 kcal/day）および若干のトレーニングを行うこととした。

そうすると今度は体重の落ち方は急激に悪くなり、成果がなかなか見えなくなった。ここで挫折が多いのだらうと思いつつも維持し、徐々に体脂肪率も減少。20%を切った頃には会う人会う人、「痩せた？」と聞かれることに快感を覚え、いつしか目標が高く……。そのあとも体脂肪率 1%を 2 ヶ月ぐらいで落とすペースで、現在は体脂肪率 16%まで下がつつも体重は維持もしくは微増という一番良い状態を保つに至っている。

脱メタボにて体は軽くなり GERD とは完全決別できたが良いことばかりではない。今まで着ていた服（特にスーツ類）は全て着られなくなり、買い替えなくてはいけなくなり、まだ進行形であるためこの先も買い替えなくてはいけない可能性もあること。既製の服のサイズは意外と大きめサイズが多いため、選択肢が狭まることである。



「中継：初執刀」

畑中政博

昨年4月から群馬県の公立藤岡総合病院の一般外科に勤務しまして早いもので1年が過ぎようとしています。初めての大人の鼠径ヘルニア手術を執刀しましたが…。

「さあ、いよいよ始まりました、畑中先生の大人のヘルニア初執刀ですがどうでしょう？」・『ん～そうですね～小児でだいぶヘルニア手術は鍛えてきたようですが、ま～今回は大人ですからね～。そう簡単にはいかないと思いますが、期待したいところですね』・「まずは皮膚切開から、浅腹筋膜キャンパー、スカルパおっと、層がはっきりしないので動揺しているようですが、大丈夫でしょうか」・『大人の場合は子供のようにはっきりしませんからね。しかしこの時点でつまずいているようじゃ先が思いやられますねー』・「外腹斜筋腱膜を露出し、繊維方向にクーパーで切開。おおーっと、ここで思わぬ出血だー。精巣挙筋からでしょうか。剥離がいまいちだったようです。ここで第2助手が金鉤をもって何やら始めましたよ」・『精索を鼠径靭帯からはがしてテープを通しましたね。持ち上げた状態でそのまま精巣挙筋をはがし始めてますね。Sacを露出しているんでしょう。完全に執刀医の手が止まっていますね。ここからリカバーできればいいんですけど』・「精巣挙筋がはがれて一部Sacらしきものが見えてきましたが、ここでようやく執刀医の手が動きだしましたね～」・『Sacがかなり大きいですからね～、処理できればいいんですが…』・「何とか処理までこぎつけましたがここでメッシュプラグの登場です。執刀医とはこれが初対面となりますが、はたして使いこなせるのでしょうか」・『教科書を読んだだけですからねー、まず無理でしょう』・「第1助手が残存Sacに1針かけました。完全に執刀医との立場が逆転していますね」・『まあ、初執刀なんてこんなもんじゃないですか？』・「さあ、ここからは第1助手が先頭に立って手術が進行していきます。やはりスピードが違いますねー」・『そうですね～。相手はベテランですからね～よく見て学んでほしいものです』・「もうシートの固定が終わったようです。閉創に入りますが、後半はたたみかける様に早かったですね～。執刀医はポイントを抑えられましたかね～」・『さあ～、どうでしょう。お家に帰ってもう一度復習してほしいですね』

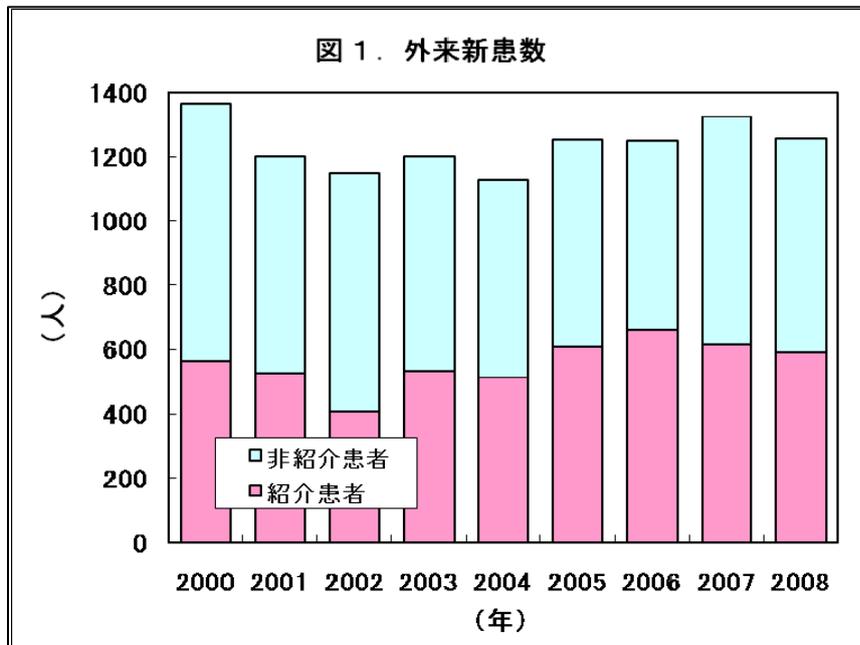
「今回の初執刀大人の鼠径ヘルニアは第1助手の圧勝で幕を閉じましたが、次回は続・初執刀胃癌幽門側切除術でお送り致します。本日はありがとうございました」・『ありがとうございました。』



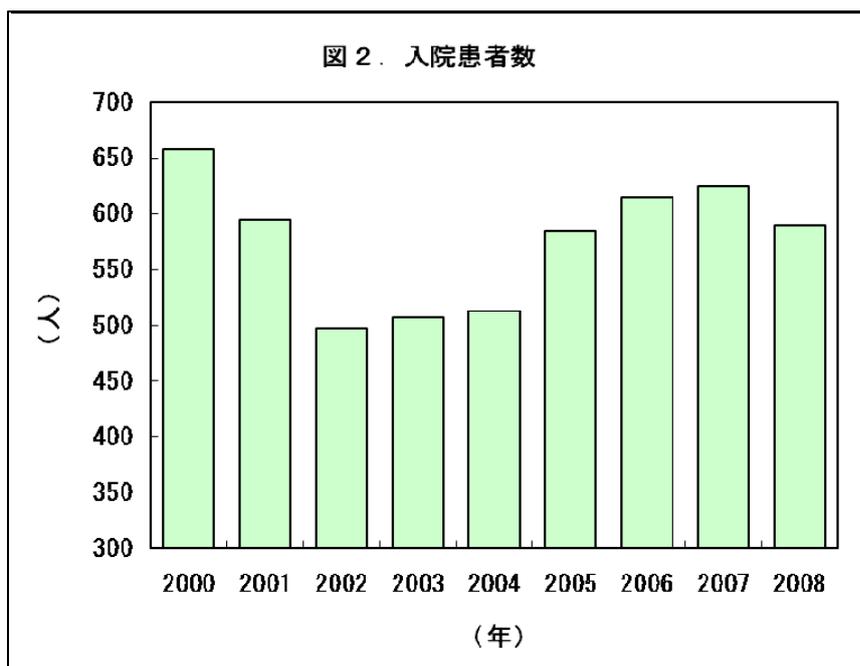
Ⅲ 診療の集計

1. 外来および入院

2008年の外来延べ患者数は5756名、うち新患者数は1258名でその紹介率は47.1%であった(図1)。

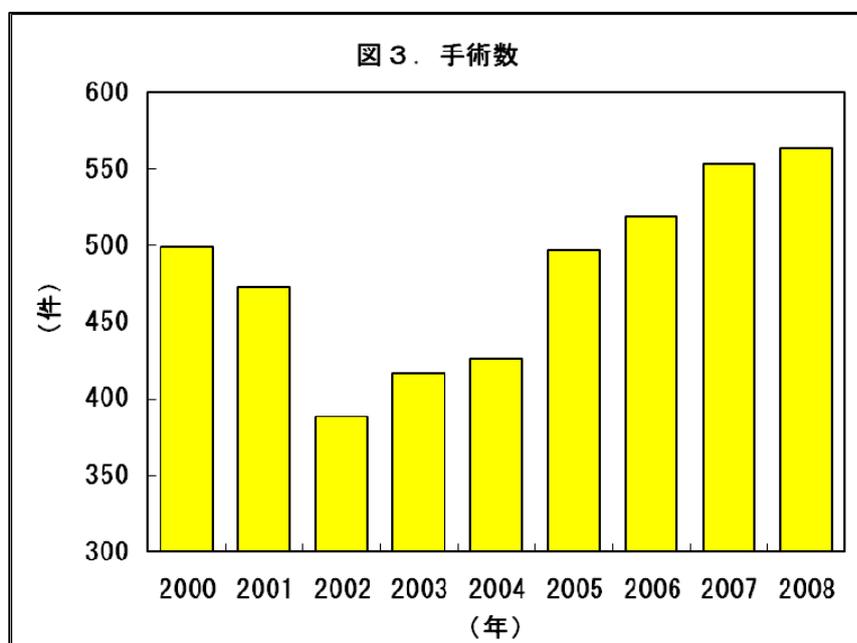


一方、2008年の入院患者数は590名、うち新生児入院数18名であった(図2)。



2. 手術

2008年の手術数は563件、うち新生児手術数9件であった(図3)。



IV 研究業績

1. 論文発表

「原著」

- 1) Suzuki M, Kato M, Yuyan C, Takita J, Sanada M, Nannya Y, Yamamoto G, Takahashi A, Ikeda H, Kuwano H, Ogawa S, Hayashi Y. Whole genomic profiling of chromosomal aberrations in hepatoblastoma using high-density single nucleotide polymorphism genotyping microarrays. *Cancer Sci* 99:564-570, 2008
- 2) Suzuki M, Takahashi A, Toki F, Hatori R, Tomomasa T, Morikawa A, Kuwano H. The effects of intestinal ischemia on colonic motility in conscious rats. *J Gastroenterol* 43:767-773, 2008

「症例報告」

- 1) 設楽利二、丸山健一、鈴木則夫、濱崎祐子、坂井智行、池田昌弘、有安大典、長谷川行洋、森川征彦、池田 均：ウィルムス腫瘍発症時は腎症状なく治療終了後に末期腎不全に至った Denys-Drash 症候群の 1 例. *小児がん* 45:162-165, 2008

「著書・総説・その他」

- 1) Ikeda H: Nephroblastoma. *Encyclopedia of Cancer* (ed. Schwab M), Springer-Verlag, Berlin, pp2040-2043, 2008
- 2) 池田 均: 神経芽腫(神経芽細胞腫). *家庭の医学* (第六版)、保健同人社、東京、pp 864-866、2008
- 3) 池田 均: 小児科医が見逃したくない外科系疾患: 腹部固形腫瘍. *小児科診療* 71:669-674, 2008
- 4) 池田 均、石丸由紀、田原和典、藤野順子、鈴木 信、畑中政博: 小児腹腔鏡下虫垂切除術における術中・術後の合併症とその対策. *小児外科* 40:447-451, 2008
- 5) 池田 均: 小児がん登録システムの現状と展望. *小児看護* 31:1474-1479, 2008
- 6) 池田 均: 18 ヶ月マススクリーニングの問題点. *小児外科* 40:1079-1082, 2008
- 7) 池田 均、石丸由紀、田原和典、藤野順子、鈴木 信、畑中政博: 開腹手術に対する臍部開腹法. *小児外科* 40:1398-1400, 2008

2. 学会・研究会への参加

「口演発表」

- 1) 池田 均: 神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化およ

- び新規診断・治療の開発研究. 平成 19 年度厚生労働科学研究がん臨床研究成果発表会
(研究者向け)、2008. 1. 22-23、東京
- 2) 田原和典、畑中政博、藤野順子、鈴木 信、石丸由紀、池田 均：腎芽腫における腎温存手術の実施可能性に関するグループ研究の提案. 第 5 回日本ウィルムス腫瘍スタディ (JWiTS) 研究会、2008. 2. 2、東京
 - 3) 田原和典、畑中政博、藤野順子、鈴木 信、石丸由紀、池田 均：再発後の治療で 5 年 7 カ月経過した無病生存の 1 例. 第 5 回日本ウィルムス腫瘍スタディ (JWiTS) 研究会、2008. 2. 2、東京
 - 4) 藤野順子、畑中政博、鈴木 信、石丸由紀、田原和典、池田 均：重度心身障害児の胃食道逆流症に対する術前検査としての嚥下機能評価. 第 38 回日本小児消化管機能研究会、2008. 2. 16、鳴門
 - 5) 石丸由紀、畑中政博、藤野順子、鈴木 信、田原和典、池田 均：当科における腹腔鏡下噴門形成術の適応と効果. 第 38 回日本小児消化管機能研究会、2008. 2. 16、鳴門
 - 6) 高橋 篤、鈴木 信、石毛 崇、鈴木僚子、羽鳥麗子、友政 剛、桑野博行：非定型的腸回転異常症に伴った横行結腸軸捻転症の一例. 第 38 回日本小児消化管機能研究会、2008. 2. 16、鳴門
 - 7) 田原和典：ラット新生仔小腸を用いた傷害小腸への再生誘導の検討. 平成 19 年度川野財団研究成果報告会、2008. 3. 1、川越
 - 8) 池田 均、小山田幸江：統合講義「事例検討」コメンテーター、第 13 回日本小児ストーマ・排泄管理セミナー、2008. 4. 25、大阪
 - 9) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：アルカリ誤飲による食道癒痕狭窄および幽門狭窄を生じた 1 例. 第 46 回埼玉県小児外科症例検討会、2008. 5. 20、川越
 - 10) Nakamura Y, Ohira M, Takenobu H, Fujimoto S, Ikeda H, Kaneko M, Kamiyo T, Nakagawara A. Molecular diagnosis of neuroblastoma: The nationwide on-line report system in Japan. *Advances in Neuroblastoma Research* 2008, May 21-24, 2008, Chiba
 - 11) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、黒岩 実、鈴木則夫、池田 均：アルカリ誤飲による腐食性食道炎の外科的治療. 第 45 回日本小児外科学会学術集会、2008. 5. 28-30、つくば
 - 12) 田原和典、畑中政博、藤野順子、鈴木 信、石丸由紀、池田 均：Oncologic emergency に対する外科治療の役割：当施設における腹部原発小児悪性リンパ腫の検討. 第 45 回日本小児外科学会学術集会、2008. 5. 28-30、つくば
 - 13) 石丸由紀、畑中政博、藤野順子、鈴木 信、田原和典、池田 均：胃食道逆流症にお

- ける術前評価の重要性. 第 45 回日本小児外科学会学術集会、2008. 5. 28-30、つくば
- 14) 藤野順子、畑中政博、鈴木 信、石丸由紀、田原和典、池田 均：重症心身障害児の胃食道逆流症に対する術前検査としての嚥下機能評価. 第 45 回日本小児外科学会学術集会、2008. 5. 28-30、つくば
 - 15) 石丸由紀、藤野順子、鈴木 信、田原和典、池田 均：胃瘻チューブ誤挿入の 2 例. 第 102 回東京小児外科研究会、2008. 6. 10、東京
 - 16) 畑中政博、鈴木 信、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：小児腹腔鏡下虫垂切除術とその合併症. 第 33 回日本外科系連合学会学術集会、2008. 6. 12-13、浦安
 - 17) 池田 均、石丸由紀、田原和典、藤野順子、鈴木 信、畑中政博：ラウンドテーブル・ディスカッション「重症心身障害児の GERD 治療」、上部消化管の機能評価と治療方針の決定. 第 33 回日本外科系連合学会学術集会、2008. 6. 12-13、浦安
 - 18) Suzuki M, Hatanaka M, Fujino J, Tahara K, Ishimaru Y, Ikeda H: Inguinal hernia repair through a minimal skin incision: Is laparoscope an indispensable instrument for inguinal hernia repair in children? IPEG's 17th Annual Congress of Endosurgery in Children, June 12-15, 2008, Cannes, France
 - 19) 池田 均：神経芽腫の臨床研究. 厚生労働科学研究がん臨床研究事業池田班・藤本班・堀部班・牧本班合同班会議、合同シンポジウム「小児がん臨床研究体制の整備に向けた取り組み」、2008. 6. 15、名古屋
 - 20) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：アルカリ誤飲による高度の食道瘢痕狭窄および幽門狭窄を生じた 1 例. 第 22 回日本小児救急医学会、2008. 6. 20-21、奈良
 - 21) 藤野順子、畑中政博、鈴木 信、石丸由紀、田原和典、池田 均：アフタ様病変を呈した急性腹症の一例. 第 35 回日本小児内視鏡研究会、2008. 7. 12、さいたま
 - 22) 池田 均、田原和典、島田憲次、設楽利二、中井秀郎、野崎美和子、大喜多肇：腎芽腫における腎温存手術の実施可能性と長期的有用性に関する前方視的グループ研究の提案. 第 17 回日本小児泌尿器科学会総会、2008. 7. 17-18、高松
 - 23) 池田 均：外科治療 CRF の回収と quality control について. 平成 20 年度厚生労働省がん研究助成金、「小児横紋筋肉腫に対する中央病理診断および遺伝子診断にもとづく臨床試験の確立と新規治療開発に関する研究」(森川班) 第 1 回班会議、2008. 7. 19、東京
 - 24) 池田 均、田原和典、野崎美和子、島田憲次、設楽利二、中井秀郎、大喜多肇：腎芽腫における腎温存手術の実施可能性と長期的有用性に関する前方視的グループ研究の提案. 第 17 回群馬小児がん研究会、2008. 8. 22、前橋

- 25) 田原和典：腎芽腫における腎温存手術の実施可能性と長期的有用性に関する前方視的グループ研究．第 22 回関東小児外科症例検討会、2008. 9. 20、東京
- 26) 田原和典、藤野順子、鈴木 信、石丸由紀、池田 均、中井秀郎：QOL の向上に人工肛門が奏功した強度脊椎後屈のある二分脊椎の 1 例．第 19 回日本小児外科 QOL 研究会、2008. 10. 18、東京
- 27) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：胎便性腹膜炎の原因となった回腸 segmental aganglionosis の 1 例．第 43 回日本小児外科学会関東甲信越地方会、2008. 10. 25、横浜
- 28) 藤野順子、畑中政博、鈴木 信、田原和典、石丸由紀、池田 均：胎児エコーで発見された両側副腎原発 stage 4S 神経芽腫の 1 例．第 43 回日本小児外科学会関東甲信越地方会、2008. 10. 25、横浜
- 29) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：「シンポジウム 1：虫垂炎」、汎発性腹膜炎を伴う虫垂炎に対する鏡視下虫垂切除術．第 24 回日本小児外科学会秋季シンポジウム、2008. 11. 1-2、沖縄
- 30) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均：男児単一巨大尿管異所開口および同側低形成腎に対する腹腔鏡下腎尿管摘除術．第 24 回日本小児外科学会秋季シンポジウム、2008. 11. 1-2、沖縄
- 31) 池田 均、石丸由紀、田原和典、藤野順子、鈴木 信、畑中政博：「シンポジウム 5：噴門形成術」、腹腔鏡下噴門形成術の実際．第 24 回日本小児外科学会秋季シンポジウム、2008. 11. 1-2、沖縄
- 32) 田原和典、藤野順子、鈴木 信、畑中政博、石丸由紀、池田 均、池袋賢一：シリコンステントを挿入した気管狭窄症の 1 例（続報）．第 47 回埼玉県小児外科症例検討会、2008. 11. 11、川越
- 33) 池田 均、田原和典、島田憲次、設楽利二、中井秀郎、野崎美和子、大喜多 肇：《がんの子供を守る会助成課題》腎芽腫における腎温存手術の実施可能性と長期的有用性に関する前方視的グループ研究．第 24 回日本小児がん学会、2008. 11. 14-16、幕張
- 34) 田原和典、藤野順子、鈴木 信、石丸由紀、池田 均：腎芽腫再発後の治療で 6 年以上経過した無病生存の 1 例．第 24 回日本小児がん学会、2008. 11. 14-16、幕張
- 35) Ikeda H, Hatanaka M, Suzuki M, Fujino J, Tahara K, Ishimaru Y. Inguinal hernia repair by selective extraction of the hernia sac through a minimal skin incision: A technical innovation with satisfactory surgical and cosmetic results. The 21st Congress of Asian Association of Pediatric Surgeons, November 16-19, 2008, Bangkok, Thailand
- 36) 藤野順子、畑中政博、鈴木 信、田原和典、石丸由紀、池田 均：巨大臍ヘルニアに

対する新たな臍形成術式の経験. 第 28 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会、
2008. 11. 21-22、大阪

- 37) 池田 均: 腎芽腫 (Wilms 腫瘍) における腎温存手術の実施可能性と有効性、ならびに
WT1 遺伝子異常の及ぼす影響に関する前方視的グループ研究. 平成 19 年度「獨協医科
大学研究助成金・奨励賞」及び平成 18 年度「関湊賞」受賞者による研究成果報告会、
2008. 12. 6、獨協医科大学
- 38) 鈴木 信、畑中政博、藤野順子、田原和典、石丸由紀、池田 均: 回腸 segmental
aganglionosis の病理学的検討. 第 103 回東京小児外科研究会、2008. 12. 9、東京

「症例提示」

- 1) 田原和典: アルカリ誤飲による腐食性食道炎の 1 例. 第 21 回関東小児外科症例検討会、
2008. 3. 22、東京

「座長・当番幹事」

- 1) 池田 均: 第 38 回日本小児消化管機能研究会、「GERD」座長、2008. 2. 16、鳴門
- 2) 池田 均: 平成 19 年度厚生労働科学研究がん臨床研究・研究成果発表会 (一般向け)、
パネルディスカッション総合司会、2008. 2. 23、さいたま
- 3) Ikeda H: Chairperson of the Plenary Session: Translational Research 2, Advances in
Neuroblastoma Research 2008, May 21-24, 2008, Chiba
- 4) 池田 均: 第 45 回日本小児外科学会学術集会、「要望演題 4: 小児外科と悪性腫瘍」座
長、2008. 5. 30、つくば
- 5) 池田 均: 厚生労働科学研究がん臨床研究事業池田班・藤本班・堀部班・牧本班合同
班会議、合同シンポジウム「小児がん臨床研究体制の整備に向けた取り組み」座長、
2008. 6. 15、名古屋
- 6) 池田 均: 第 22 回日本小児救急医学会、「消化器 4」座長、2008. 6. 21、奈良
- 7) 池田 均: 第 35 回日本小児内視鏡研究会、「食道」座長、2008. 7. 12、さいたま
- 8) 池田 均: 第 43 回日本小児外科学会関東甲信越地方会、「腫瘍(3)」座長、2008. 10. 25、
横浜
- 9) 池田 均: 第 24 回日本小児外科学会秋季シンポジウム、「シンポジウム 1: 虫垂炎」コ
メンテーター、2008. 11. 1-2、沖縄
- 10) 池田 均: 第 24 回日本小児がん学会、教育セッション 3「横紋筋肉腫」座長、
2008. 11. 14-16、幕張
- 11) 池田 均: 第 24 回日本小児がん学会、「軟部腫瘍 4」座長、2008. 11. 14-16、幕張

3. 研究助成等

- 1) (補遺) 平成 19 年度日本対がん協会がん医療水準均てん化推進事業研究成果等普及啓発事業 (一般向け発表会)、770,000 円 (代表者、池田 均)
- 2) 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業、「神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化および新規診断・治療法の開発研究」、45,396,000 円 (研究代表者、池田 均)
- 3) 平成 20 年度厚生労働省がん研究助成金、「小児横紋筋肉腫に対する中央病理診断および遺伝子診断にもとづく臨床試験の確立と新規治療開発に関する研究」、1,300,000 円 (研究分担者、池田 均)
- 4) 平成 20 年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 A)、「治療過程管理を導入した小児横紋筋肉腫にたいする臨床試験と遺伝子解析研究」、260,000 円 (研究分担者、池田 均)
- 5) 平成 20 年度日本対がん協会がん医療水準均てん化推進事業研究成果等普及啓発事業 (一般向け発表会)、1,000,000 円 (代表者、池田 均)

4. 学位

鈴木 信：群馬大学 (甲)

学位論文「Whole genome profiling of chromosomal aberrations in hepatoblastoma using high-density single nucleotide polymorphism genotyping microarrays. *Cancer Sci* 99:564-570, 2008」

V 教育関連の活動

1. 学生実習

医学部 5 年生を対象とした bedside learning (BSL) を担当した。朝 8 時 30 分のミーティングから診療終了時刻まで学生は担当医とともに過ごした。病歴聴取、診察、検査、手術 (術前準備から術後管理まで)、診療記録の記載などの実際を指導した。学生は可能な限り緊急手術にも立ち会い、外来診療、回診、カンファレンス、症例検討会などを通じ小児外科疾患の病態、診断、治療に関する基本的知識が得られるよう、さらにチーム医療の実際を体験できるよう配慮した。学生には個別にテーマを与え、学習した内容を短時間でプレゼンテーションする機会も与えた。

2. 卒後臨床研修

2008年度は初期臨床研修医2名が小児外科における研修を選択し、それぞれ4週間の研修を行った。研修は越谷病院臨床研修プログラムに従い実施された。

3. 講演・講義

- 1) 池田 均:「日本における小児ストーマ・排泄管理の現状」、第13回日本小児ストーマ・排泄管理セミナー、2008.4.24、大阪
- 2) 池田 均:「消化管の発生と小児外科」、獨協医科大学講義(2年生)「消化・吸収・栄養の科学」、2008.6.23、壬生
- 3) 池田 均:「小児固形がんの遺伝子病態と最先端の治療」、群馬大学病態総合外科学実践臨床病態学講義(6年生)、2008.8.22、前橋

4. セミナーの開催

なし

5. 小児外科・病理カンファレンス

- 1) 第21回小児外科・病理カンファレンス、2008.7.4
 - (1) 日齢2、男児、限局性 hypoganglionosis
 - (2) 2歳、男児、胆道拡張症
 - (3) 1歳、男児、血管腫
 - (4) 9ヵ月、女児、腎芽腫
 - (5) 3歳、女児、組織球腫
 - (6) 1歳、女児、口唇瘻孔
 - (7) 9ヵ月、男児、低形成腎(尿管異所性開口)
 - (8) 21歳、女性、乳腺腫瘍

6. 抄読会

2008年は26回(抄読論文数45)の抄読会を行った。

VI その他

- 1) 池田 均:「故・岡田 正先生を偲んで」、岡田 正先生追悼文集、pp81、2008年1月

- 2) 池田 均：『がん臨床研究事業』研究成果発表会（一般向け）開催される」、獨協医科大学学内だより（2008年3月号）、404:9, 2008
- 3) 石丸由紀：「子どもを事故から守る」、東京新聞栃木版、2008. 4. 24 朝刊
- 4) 鈴木 信：「近況報告」、群大一外同門会報第36号、pp129-135、平成20年6月
- 5) 石丸由紀：「子どもを事故から守る」、獨協医科大学学内だより（2008年8月号）、409:13, 2008

付.

平成20年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
「神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と
均てん化および新規診断・治療法の開発研究」班

「研究成果発表会 [一般向け]」プログラム

平成20年度 厚生労働科学研究[がん臨床研究事業]

神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化

および新規診断・治療法の開発研究

研究成果発表会[一般向け] プログラム・抄録集

小児がんと闘う
こどもたちのために
～日本の小児がん医療のこれから～



期 日:平成21年2月21日(土)

会 場:堺市総合福祉会館(大阪府堺市)

平成20年度 厚生労働科学研究[がん臨床研究事業]
神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化
および新規診断・治療法の開発研究

(研究代表者 獨協医科大学越谷病院・小児外科 池田 均)

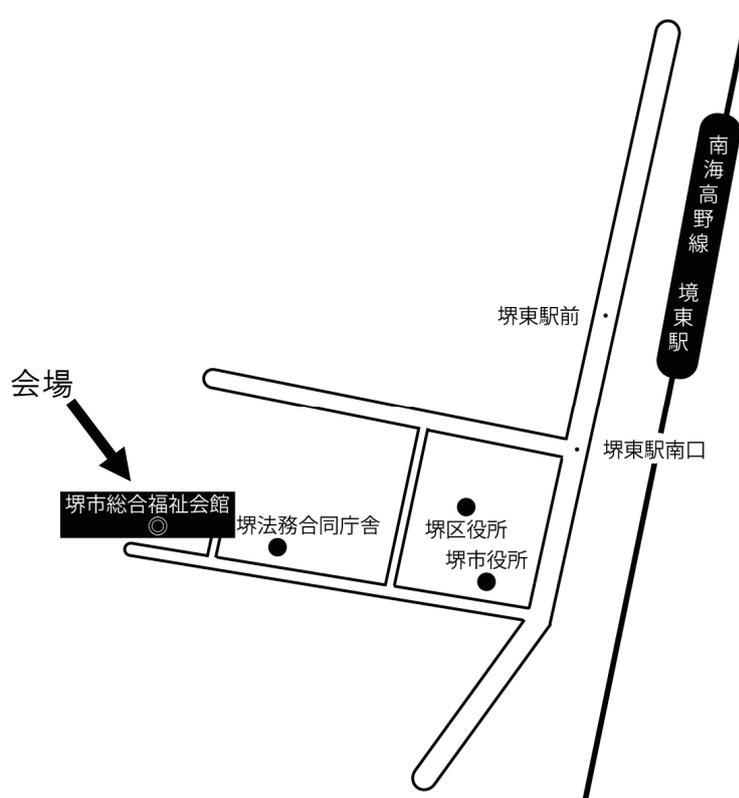
研究成果発表会[一般向け]

期日:平成21年2月21日(土)

会場:堺市総合福祉会館

〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町2-1

TEL 072-222-7500 FAX 072-221-7409



共催・後援

共催

財団法人 日本対がん協会
財団法人 がんの子供を守る会

後援

日本小児科学会
日本小児がん学会
日本小児血液学会
日本小児外科学会

事務局

獨協医科大学越谷病院 小児外科 鈴木 信、菊地留衣子
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷2-1-50
TEL 048-965-8594 FAX 048-965-1134
E-mail seika@dokkyomed.ac.jp

大阪府立母子保健総合医療センター 血液腫瘍科 井上 雅美
同 小児外科 米田 光宏

研究成果発表会の開催に際して

～変わりつつある小児がんの医療～

平成20年度 厚生労働科学研究[がん臨床研究事業]
神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と
均てん化および新規診断・治療法の開発研究 研究代表者

池田 均 (獨協医科大学越谷病院 小児外科)



昨年度に続き、今年度も研究成果発表会を開催させていただくこととなりました。昨年度はさいたま市において開催し、今年度は大阪での開催です。本発表会は、神経芽腫を対象とする厚生労働科学研究がん臨床研究事業研究班の研究成果と、日本における小児がん医療の現状を皆様にご理解いただくことがその目的です。神経芽腫については研究班の班員で、日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)会長の金子先生に治療と臨床試験について解説をしていただきます。小児がんの中で頻度の多い小児白血病とリンパ腫の治療については原先生に説明をお願いしました。小児がん医療の全般については細井先生に、また治療成績の改善にともないあらためて重要なテーマとして認識されているフォローアップの問題については藤本先生に解説していただきます。

もちろん、一人でも多くの患児が小児がんを克服できるようになるには専門病院や専門医の存在が不可欠です。病気の正確な発生頻度を知るがん登録や、臨床試験という方法による新たな治療法の開発研究も必要となります。一方、小児がんの患児やご家族には身体的・精神的苦痛に加え、社会的・経済的な負担が生じることも事実で、そのような障碍を乗り越えられるようサポートの体制も整備しなければなりません。このような小児がんを取り巻く医療の環境については、現在、その整備に関与されています日本小児がん学会理事長の檜山先生と、長年、患児やご家族のサポートに尽力されております河先生(元日本小児がん学会理事長)に発言をいただきます。小川さん、吉田さんにはそれぞれ小児がん経験者とご家族の立場から、医療を受けられた側からの率直なご発言をいただきます。

本研究成果発表会では会場の皆様からも忌憚のないご発言をいただき、ともにこれからのより良い小児がん医療を考える機会にしたいと考えております。少しでも小児がんと闘う子どもたちやご家族のお役に立てればというのが開催者の切なる願いです。どうぞよろしくお願いいたします。

プログラム

13:00

開会

池田 均

13:00 - 15:40

第1部 講演・発言

(各20分)

講演 (13:00~14:20)

1. 代表的な小児がん・神経芽腫の治療成績向上のために

筑波大学大学院人間総合科学研究科 小児外科教授 金子 道夫

2. 日本における小児白血病・リンパ腫の治療

大阪市立総合医療センター 副院長・小児血液腫瘍科 原 純一

3. 全身に発生する小児がんの治療戦略:スペシャリストの共同作業

京都府立医科大学大学院医学研究科 小児発達医学教授 細井 創

4. 子どもたちの健やかな成長を願って:フォローアップ体制の整備

国立成育医療センター研究所 副所長 藤本 純一郎

発言 (14:20~15:40)

5. 日本小児がん学会の取り組み

広島大学病院 小児外科教授・日本小児がん学会理事長 檜山 英三

6. 小児がんのトータルケア

大阪府立母子保健総合医療センター 病院長・血液腫瘍科 河 敬世

7. 小児がん経験者の立場から

小川 真希

8. 小児がん患児の家族として

吉田 直美

15:40 - 15:50 休憩

15:50 - 17:00 第2部 パネルディスカッション

総合司会 獨協医科大学越谷病院 小児外科教授 池田 均

17:00 閉会

編集後記

2008 年は正月明けの日曜日に浅草の七福神を詣でた。浅草寺をかわきりに浅草神社を抜け、隅田川沿いに上って待乳山聖天（まつちやましょうてん）から今戸神社、橋場不動院を巡り、おそるおそる吉原大門から吉原神社へ至り、最後は国際通りへ出て鷲神社（おおとりじんじゃ）を参拝した。年の初めの願いは何であったか、すでに記憶にない。ただはっきりと覚えているのは、約2時間の散策で触れた休日午後の下町の陽光であった。穏やかな冬の陽に、えもいわれぬ美しさと安心感を覚えたのを記憶している。

一転、年の後半は世の中全体が暗底に落下するような状況となり、先の見えない不安に戸惑う始末である。危機の時、人にはそれぞれの対応があると思うが、私の場合は「過剰反応を慎み」、このような社会状況への対処としている。吹きつける突風はしばらく羽をすぼめて避けるのがよい。焦って独り善がりの空回りとなれば余計な事態の悪化を招くことにもなる、そう懼れるからである。

（池田）

獨協医科大学越谷病院小児外科のあゆみ 2008 年

平成 21 年 3 月 31 日発行

編集・発行 獨協医科大学越谷病院小児外科
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50
TEL 048-965-8594

印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷
TEL 028-662-2511(代)
